

**”探す”には「検索」から、”教科書のように読む”なら「目次」から**

## Current Decision Support

2000名の著名医師による 次世代型診療マニュアル

症状、疾患、医薬品について調べる

Q キーワード検索

**検索** →

← **目次** →

症状・所見	疾患	治療薬
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 症状(全身症状)</li> <li>• 症状(脳神経・精神)</li> <li>• 症状(循環器)</li> <li>• 症状(胸部・循環器系)</li> <li>• 症状(胸部・呼吸器系)</li> <li>• 症状(腹部・消化器系)</li> <li>• 症状(腎・泌尿器)</li> <li>• 症状(女性・産婦人科系)</li> <li>• 症状(四肢・関節系)</li> <li>• 症状(皮膚)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 救命救急</li> <li>• 循環器</li> <li>• 呼吸器</li> <li>• 消化器</li> <li>• 腎臓</li> <li>• 脳神経内科</li> <li>• 脳外科</li> <li>• 感染症</li> <li>• 血液内科</li> <li>• 内分泌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 抗がん薬</li> <li>• 抗真菌薬</li> <li>• 抗ウイルス薬・抗ウイルス療法薬</li> <li>• 抗寄生虫薬</li> <li>• 抗寄生虫薬</li> <li>• ワクチン類・毒薬・トキシソイド類・抗毒薬類</li> <li>• 抗不安薬・睡眠薬</li> <li>• 抗てんかん薬</li> <li>• 鎮痛薬(非ステロイド抗炎症薬など)</li> </ul>

**第一線の専門医が描き下ろした現場の「処方例」**

- ◎概要・定義
- ◎分類
- ◎疫学
- ◎日常診療でよくある頭痛の原因
- ◎重要な頭痛をきたす疾患の評価
- ◎軽だが考慮すべき疾患
- ◎鑑別疾患一覧
- ◎アプローチ
- ◎身体診察
- ◎検査例
- ◎症状治療例
- ◎診療に選んだ医療機関
- ◎診療に役立つエビデンス
- ◎シナリオごとの評価

**症状治療例**

- 2次性頭痛の場合には、その原因に応じた治療を行う。
- 1次性頭痛では、緊張型頭痛に対しては鎮痛薬を、片頭痛に対しては鎮痛薬またはトリプタン製剤の投与を検討する。
- 鎮痛薬は薬物乱用頭痛にならないように留意する。
- 急性の群発頭痛と考えられる頭痛を認めた場合は、酸素投与も効果があり、イミグランを点鼻または皮下投与する。

**鎮痛薬**

- 1) カロナール(200mg)【用法(筆者)】1回2錠 頭痛時頓用、または1回2錠1日3回/2018年1月【対象】頭痛を認める患者【想定病名】頭痛  
(参考:添付文書情報:カロナール(錠) [200mg錠][300mg錠][500mg錠]【効能効果1】頭痛【用法(添付文書)】(成人)1回300~1000mg服用し、投与間隔は4~6時間以上とする。)
- 2) ロキソニン錠(60mg)【用法(筆者)】1回1錠 頭痛時頓用、または1回1錠1日3回/2018年1月【対象】頭痛を認める患者【想定病名】頭痛【コメント】薬物乱用頭痛に注意  
(参考:添付文書情報:ロキソニン(錠) [60mg錠]【効能効果1】変形性関節症【用法(添付文書)】(成人)1回60mg、1日3回服用。頓用の場合は、1回60~120mg服用。)
- 3) ナウゼリン(10mg)【用法(筆者)】1回1錠 吐き気時頓用/2018年1月【対象】特に片頭痛で、吐き気を行う患者【想定病名】慢性胃炎【コメント】鎮痛薬との併用する場合もある。

**制吐薬**

## 解説付きの「エビデンス情報」

- 概要・定義
- 分類
- 疫学
- 日常診療でよくある頭痛の原因
- 重篤な頭痛をきたす疾患の評価
- 稀だが考慮すべき疾患
- 鑑別疾患一覧
- アプローチ
- 身体診察
- 検査例
- 症状治療例
- 診療に連した医療機関
- 診療に役立つエビデンス
- シナリオごとの評価

**診療に役立つエビデンス**

**髄液穿刺前のCT**

- 一般にはCTを先に撮るのが常識
- 文獻的には髄液穿刺前にCT撮像は、1：免疫不全状態、2：中枢神経系の病気の既往、3：新たに発症したけいれん、4：うっ血乳頭を認める、5：意識状態の変化、6：神経脱落症状を認める場合に考慮する。[Clin Infect Dis. 2004 Nov 1; 39(9):1267-84]

**くも膜下出血の精査をいつ行うか？ (Ottawa SAH Rules)**

- 救急外来において、1：40歳以上、2：頸部痛が頸部硬直、3：意識消失の目撃、4：労作時に発症、5：ただちに最大となる電撃様頭痛、6：頸をむねにつけるや臥位で8cm以上頭をあげることができない場合のいずれか1つを認めたらしくも頭下出血を疑って精査を検討する。[JAMA. 2013 Sep 25; 310(12):1248-55]

---

**関連するガイドライン/レビュー文献**

- [国際頭痛分類第二版] (ガイドライン)

---

**問診**

- レッドフラッグサインを示唆する問診（突発、増悪、最悪など）を確認する。
- 頭痛の頻度、性状、持続時間も鑑別のために有用である。
- 片頭痛を疑えば、その特徴である光・音・臭いなどに対する過敏症状、嘔気、ADL障害の程度を確認する。

## シナリオ解説付きの「診断アルゴリズム図」



## 詳細な「薬剤情報」を検索・閲覧

検索: ロキソニン

**ロキソプロフェナトリウム水和物 (商品名:ロキソニン、ロキソプロフェナトリウム)**

【概要】  
鎮痛薬(非ステロイド抗炎症薬など) > NSAIDs(解熱薬/鎮痛薬/抗炎症薬)ロキソニン  
ロキソプロフェナトリウム主成分ロキソプロフェナトリウム水和物代表添付文書  
ロキソニン錠60mg錠10%ロキソプロフェナトリウム内服液60mg以下、代表添付文書の添付文書の情報を表示します。各代表添付文書情報ロキソニン錠60mg / ...

**ロキソニンテープ50mg / ロキソニンテープ100mg**

【概要】  
主成分 ロキソプロフェナトリウム水和物-外用  
代表添付文書情報 ロキソニン  
【一覧】  
• テープ50mg  
• テープ100mg  
【効能効果1】 「次の疾患並びに症状の消炎・鎮痛」「急性関節炎、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛」  
【用量】 「1日1回、患部に貼付する。」

**ロキソニン錠60mg / ロキソニン錠10%**

【概要】  
主成分 ロキソプロフェナトリウム水和物  
代表添付文書情報 ロキソニン  
【一覧】  
• 錠60mg  
• 錠10%  
【効能効果1】 「次の疾患並びに症状の消炎・鎮痛、関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛」

**ロキソプロフェナトリウム水和物 (商品名:ロキソニン、ロキソプロフェナトリウム)**

【概要】  
鎮痛薬(非ステロイド抗炎症薬など) > NSAIDs(解熱薬/鎮痛薬/抗炎症薬)  
ロキソニン  
ロキソプロフェナトリウム  
主成分 ロキソプロフェナトリウム水和物  
代表添付文書情報 ロキソニン  
【一覧】  
• 錠60mg  
• 錠10%  
ロキソプロフェナトリウム:  
• 内服液60mg  
以下、代表添付文書の添付文書の情報を表示します。  
各代表添付文書情報  
ロキソニン錠60mg / ロキソニン錠10%

【効能効果1】 「次の疾患並びに症状の消炎・鎮痛、関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛」  
【効能効果2】 「手術後、外傷後並びに処置後の鎮痛・消炎」  
【効能効果3】 「次の疾患の解熱・鎮痛、急性上気道炎(急性気管炎を伴う急性上気道炎を含む)」  
【用量】 「通常、成人にロキソプロフェナトリウム(水和物として)1」

## 症候の「タグ」で「鑑別」の絞り込みが可能

検索: 頭痛

タグ: 小児, 小児, 中枢, 眼周辺, 後頭部, **神経**, 突発性, 悪化傾向, 顔方に悪化, 症状, 発熱, 先行する感冒, 嘔吐, 神経痛, 鼻汁, 鼻閉, 神経症状, 呼吸, 免疫不全, 外傷型, その他, 高齢者, 初発, 外傷後, 自律神経

シナリオ

- 頭痛 脳卒中
  - 片頭痛
  - 緊張型頭痛
  - 後頭神経痛
  - 頸椎病
  - うつ病による頭痛
- 頭痛 悪化傾向
  - ウィルス性/細菌性髄膜炎
  - 脳腫瘍
  - 慢性髄膜炎/髄膜炎
  - 脊髄神経根炎
- 頭痛 突発性
  - くも膜下出血
  - 片頭痛
  - 後頭神経痛
  - 緊張型頭痛
  - 脳出血
  - 脳梗塞
- 頭痛 突発性 X
  - くも膜下出血
  - 片頭痛
  - 後頭神経痛
  - 緊張型頭痛
  - 脳出血
  - 脳梗塞
- 頭痛 反復性
  - 片頭痛
  - 緊張型頭痛
  - 後頭神経痛
  - 慢性髄膜炎
  - 三叉神経痛
- 頭痛 自律神経性頭痛
  - 片頭痛
  - 緊張型頭痛
  - 後頭神経痛
  - うつ病による頭痛

突然発症の頭痛

主な鑑別疾患

- くも膜下出血 (劇烈、くも膜下出血の家歴、意識障害)
- 脳部CT、脳部MRI、腰椎穿刺→脳神経外科コンサルト
- 片頭痛 (光・音過敏、ADL障害あり、消化器症状もありえる)
- 後頭神経痛 (他疾患の除外→NSAIDsまたはトリプタン製剤の使用)
- 後頭神経痛 (頭の後部や側頭、神経症状)
- 脳部MRI、脳部CT→脳神経内科、脳神経外科コンサルト
- 脳出血 (神経障害症状、高血圧の既往)
- 脳部CT→神経内科コンサルト
- 脳梗塞 (神経症状、動脈硬化のリスク)
- 脳部CT、脳部MRI→神経内科コンサルト

その他の鑑別疾患

- 下垂体卒中、可逆性脳血管攣縮候群 (RCVS)

解説

- 突然発症の頭痛では常にくも膜下出血を念頭に評価を要する。
- 突然発症は頭蓋内血管の破綻 (出血や梗塞、脳腫) を示唆する。
- 後頭部では後頭・脳脊髄神経痛を忘れぬ。
- 突発性の片頭痛では片頭痛のことも有る。

追加検索例

- 脳波検査、脳部CT、脳部MRI、脳部MRI